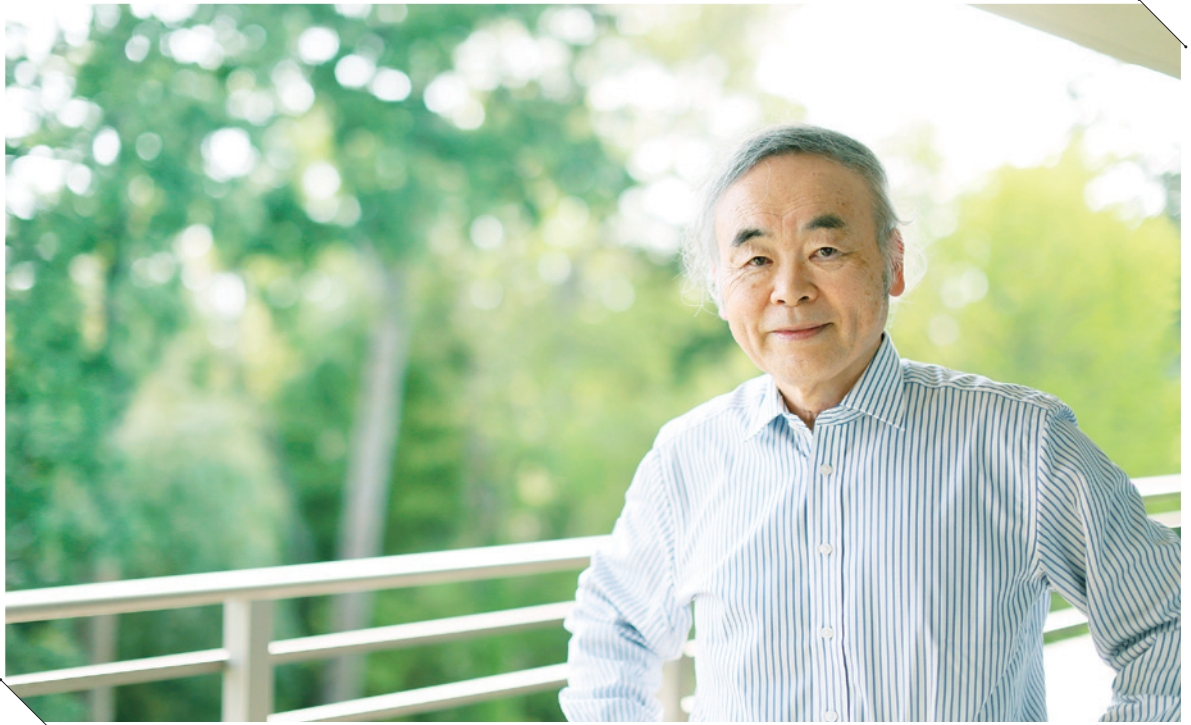


むさしの TALK

他に先駆けた取り組みで 日本をリードする自治体であれ

藤原正彦さん(数学者)

武蔵野市に半世紀以上住んでいる、数学者で作家の藤原正彦さん。真理を読み解く鋭い視線で、武蔵野市について語っていただきました。



長野県の諏訪出身である父が、中央線の沿線であること、富士山が見えることを気に入って、武蔵野市に住み始めたのが昭和27年だったと記憶しています。私は第四小学校に通い、当時は校庭からも小さな富士山を眺めることができました。

武蔵野市には本当に至るところに気持ちの良い散歩道がありますね。こんな都市は世界中を見渡しても、そう多くありません。良さそうな場所だと思って歩き出しても、ふいにSHABBY(わびしい)な道になってガッカリしたりするので、武蔵野市には成蹊大学のケヤキ並木や、市役所前の桜並木など、四季折々に楽しめる道がありますし、井の頭公園や小さな公園も多数点在しています。私は毎日8キロ程度歩くのですが、未だに飽きることがありません。

また、高齢化するまちが多い中で、武蔵野市には学校がたくさんあるのが、若い人が多いですね。まちに活気が生まれ、そのエネルギーを高年齢

藤原正彦(ふじわらまさひこ) 1943年生まれ。東京大学理学部数学科、同大学院修士課程修了。物理博士。お茶の水女子大学名誉教授。父・新田次郎と母の藤原ていは共に作家。著書に大ベストセラーとなった『国家の品格』がある。近著は『管見妄語 できすぎた話』(新潮社)。

● PRESENT

今回取材した、藤原正彦さんのサイン入り書籍『管見妄語 できすぎた話』を抽選で3名様にプレゼント！詳しくは本誌折込みハガキをご覧ください。



者がもらって元気になるという良い循環があると思います。まちに若い人や赤ちゃんがいることはとても重要です。ですから、小さな子どもと親と一緒に過ごせる施設「0123」などは、とても良い取り組みだと思います。子どもたちは自由に遊び、親は同じ世代の子どもを持つ親同士のつながりができ、いろいろな情報交換をすることもできます。「0123」のような施設は、今こそほかの自治体でも見られますが、武蔵野市が初めて行った画期的な取り組みだったと思います。このように日本の先頭をきった施策で、いつまでも国をリードするようなまちであってほしいと願っています。

